家庭数

学校だより

いなほ 稲穂

市川市立平田小学校

No.14

令和５年１０月５日

校長　　蜂須賀　久幸

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～

https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho

学校教育目標
夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

たった一文字に、自分の思いをギュッとこめて

小学校低学年から中学年くらいまでの児童は、家族に何かをしてもらうのが当たり前で受け身の生活をしている様子が、言動から見え隠れしています。もしかすると、家族のことをあまり考えていない児童は少なくないはず。９月下旬発行の「ゆとろぎだより No.２」に、ギブ・アンド・テイクの話がありましたが、まさに「テイク」されるばかりでバランスの悪い生き方になっていることも考えられそうです。これまであまり考えてこなかった家族への思いを振り返り、協力して楽しい家庭をつくっていくことに思い及ぶ人が増えるとよいと思うのです。

さて、ある教科書出版社が出している３年生の道徳に、「漢字の思いをこめて」という題材があります。その冒頭に「家族への思いを漢字一字にこめるとしたら、あなたはどの漢字に、どんな思いをこめて伝えたいと思いますか。」とあります。

さらにこの出版社の参考サイトを辿っていくと、日本漢字能力検定協会が実施する『今、あなたに贈りたい 漢字コンテスト』という文字に行き着きました。そこには、次のように書かれています。“家族や恋人、友人や恩人、そして自分自身にあてて…　日頃は言えない素直な気持ちを、漢字一字に託して贈ってみよう”と。

誰かの顔を思い浮かべながら贈る漢字を選んでいるその時間は、自分自身や周りの人々を見つめ直し、自分の気持ちと正面から向き合うことにきっとなるはずです。そして、贈られた文字は、かけがえのない宝物として相手の心にも刻み込まれると思うのです。

参考に、前回の受賞作品を２つ紹介します。

❶ 私　から　神様　へ　『止』

かみさま、このかんじをあなたにおくりたいです。いま、せかいのみんなをこまらせるコロナとせんそうを止めてください。そして「止」に一本のせんをひいて「正」にかえて、せかいをただしくもどしてください。せかいのみんながしあわせにくらせますように。（6 歳）

❷ 私　から　おじいちゃん　へ　『充』

昔から心臓が悪くペースメーカー手術をしたおじいちゃん。普段弱音を吐かないのに、手術後は「じぃじ、ロボットになっちゃった」と悲しげに言っていたのを覚えています。おじいちゃんがロボットなら私はいつも笑顔にできる充電器のような存在になりたいです。（16 歳）

今年度のコンテスト募集はすでに締め切られましたので、今から応募することはできませんが、敢えて前期が終了する今日、私からの課題を出します。上の要領で、裏の用紙に作品を書いて、１０月２０日（金）までに校長室前に届けてください。学級全体での取り組みや保護者の皆様からの応募も待っています。素敵なメッセージは、ぜひ紹介したいと思っています。

白門で約３年半もの間、ボランティアとして朝の見守りをしてくださった千葉正彦さんが、引退されます。長い間、本当にありがとうございました。今度は散歩ついでに顔を見せてくださいね。

なぜできないの？

「わかった」は世界一信用ならない
学校からの伝達事項は何一つ伝達されない
ランドセル、机の中は、ブラックホール
お便りは忘れたころに発掘されるアコーディオン
開いたページから書き込まれる連絡帳は解読不能
おろしたての消しゴムは一日で芸術品仕上げ
学校からの電話におびえる母
ズボンの膝は穴を開けるのがセオリー
スペア３つは確定事項
傘、水筒は使い捨ての消耗品
片方だけの靴下を量産
甲子園から持ち帰ったかのような砂の出るズック
服は着心地優先、汚れの目立たないダークカラー
白Ｔが白であったためしがない　（順不同）

右の言葉をインスタの画面に見つけました。ある親のため息や嘆きであると同時に、愛も感じられる言葉です。これは、発達障害の男児を育てるお母さんからの投稿のようです。

他者から見ると、「なぜできないの？」「簡単なことでしょ？」「みんなちゃんとやっているよ」と言いたくなることかもしれませんが、「ふつう」と言われることがとても難しい子がいるのです。理解されないことで子供自身の自己肯定感は低下する一方です。保護者も悩むケースは少なくありませんし、色々と手を尽くしているのです。

このインスタの投稿は一例ですが、子供が悪いことをしたりできなかったりするとつい「コラッ！」と大声で怒鳴ってしまうこともあるはず。でも、素直に聞けない子、何を怒られているか理解できない子がいます。教室にあっては、自分が怒られているわけではないのに、怖くなったり嫌な気分になったりしてしまう子がいるのです。

ではどうしたらよいのか。絵本『ぼく、わたしのトリセツ』にこんなヒントを見つけました。「コ」と「ラ」の間に「ア」を入れて、「コアラ！」と怒鳴ればよいと。なんだか不思議とハッピー(？)になれそうです。また、「プン！」と言って怒るのも効果的だと…。「コアラ！」や「プン！」を魔法の怒り言葉だと言います。

また、謝るのが苦手な子には、「ごめんなさ」まで言ってあげると、「い」だけなら言えそうです。次は「ごめんな」まで言って、「さい」を言ってもらうようにするというテクニックが紹介されています。著者の松下隼司さんは、大阪で小学校教師を務め、アンガーマネジメントを突き詰めていく中でテクニックを編み出したそうです。松下さんの別の絵本『せんせいって』も読んでみたい気がします。

個別に課題を抱える児童を知ろうとせずに排除しようとするのではなく、どうすれば両立させられるのか、皆が前向きに学習・生活できるのかを一緒に考えていこうとする気持ちを大事にしたいと思うのです。

キリトリセン

宿　題　提　出　用　紙

10／20〆切

年　　組　なまえ

＿＿＿＿＿＿＿＿　から　＿＿＿＿＿＿＿＿　へ　この漢字（かんじ）を贈（おく）ります